

B-39 絹布のグラフト重合と染色性(その3)

スチレングラフト重合と反応性染料の染色性 姫路短大 加古 武

絹布のグラフト重合についてはいまだ充分に研究されているとはいえない現状である。絹布のグラフト重合が染色の前後いずれに行なわれるかにより染色性に及ぼす影響が大きいと考えられる。スチレングラフト重合と反応性染料(M型)の染色性について染着率, 色差, グラフト率などへの影響について検討した。

供試布は絹平羽二重を用いて糊抜, 精練後, 乳化重合(スチレンモノマー8%, エパン750:ノイゲンET-190=3:1)した。染色は(1)グラフト重合後染色する場合, (2)染色後グラフト重合する場合にわけ反応性染料(M型)3種を用いて酸染法, アルカリ染法で各々染色した。染着率は分光光度計により反射率を測定し, %から比率を求めた。色差は色差計よりL, a, bを求めHunterの色差(NBS)ΔEを求めた。

(1)グラフト重合後染色した場合についてはグラフト布の染着率は染料によりことごとくが湿度, 時間が増加により向上するが, 精練布に比して低い。グラフト布の色差は精練布に比して大きい。又酸性及び塩基性染料に比して影響が大きい。(2)染色後グラフト重合した場合染着率の低下, 色差の変化, グラフト率の低下は少く, 酸性及び塩基性染料に比して影響は少ないようである。